

令和6年度 第5回 京田辺市社会教育委員会議
会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 活動報告

山城地方社会教育委員連絡協議会研修会に参加した委員が報告を行った。

(2) 令和6年度社会教育委員活動実績及び令和7年度社会教育委員活動計画（案）について

資料の概要について、事務局が説明

意見等なし

(2) 令和6年度社会教育委員活動実績及び令和7年度社会教育委員活動計画（案）について

資料の概要について、事務局が説明

意見等なし

(4) 京田辺市の社会教育について

京田辺市と同志社大学との連携及び資料の概要について事務局が説明ののち、出席委員が同志社大学と京田辺市とのあり方について意見を述べた。

（委員） 同志社と京田辺のメリットになる連携。高尚なものになるように引き上げていきたい。学生が地域課題を解決する等により京田辺の課題を把握することや市民が大学の講座に参加することで学生にプラスの影響が出れば良い。

（委員） 大学のカリキュラムの一つとして、高齢化問題等地域課題を取り上げてもらい、それを受けて市の政策として取り組んで欲しい。

（委員） 大学は連携を2年前に依頼しないと実現が難しい、市役所以上に官僚的な組織。文化協会が協力を打診しても費用問題等で進まない。一部学生はボランティアで手伝ってくれるが、こちらがある程度用意しないと自主的に動くことは難しい。

（委員） テーマが大きいので子どもに焦点を当てた。現在行われている科学教室等は、日程や定員があり大学に連れて行かないといけないので、保護者とは参加が難しい。幼稚園や学校に学生が来てもらえると、大学がどういうものか、学生が何をしているのか子どもが分かるので良い。

（委員） 市と大学は連携がしっかりとできているが、もう少し先の区・自治会と大学や市民と学生の関係は薄い。学生はメリットがないと動かない。区・自治会も役員のなり手がなく消極的なのに学生に任せるのは本末転倒。学生に消防団に加入してもらい、市長名でボランティアをした証明を渡すようにした。お互いメリットのある事を考えないといけない。

（委員） 大学が京田辺市に開校した1987年から地域に根差した大学を目指し

てきた。以降、生涯学習を含めた様々な連携をしている。大学を修了するには、単位を収めることと4年間学修することが必要。地域に学生を迎えてくれるのは大いに歓迎するが、地域で事故が起こらないよう危機管理も大切。また、教員は大学に属するが、研究者。大学が一番求めるのは、知的資源を社会に還元して、それが社会の中で役割を果たすこと。

- (委員) 京田辺市と大学の共通点は、歴史のある京田辺にあること。学生も市民も市外出身の人がほとんどで、京田辺のことを知らない。歴史ある京田辺のことを学習することが授業の一環になれば良い。
- (委員) 大学の情報量が少ない。学生にやって欲しいことがあっても、どこに何を言えば良いのか分からない。大学側の窓口が分かれればそこに話を持っていくことができる。協議会的なものを作ればよい。
- (委員) 大学に要望すべきことがあるか、要望すべきことがあれば何を要望するかをテーマごとに検討してはどうか。
- (委員) 学生が勝手にボランティアで参加するのと違い、大学が学生を地域に提供すると大学に責任が及ぶ。学生を地域に出すには課題が多い。
- (委員) 学生の派遣方法や協議会等具体的なことは要望が決まった後に議論すれば良い。
- (委員) 個別の話は個別に依頼すればできる。学生ボランティアなどは学長に言う話ではない。京田辺市と大学はヒューマンカレッジなどの連携をしており、一過性の連携ではないのでもっと自慢すればよい。
- (委員) 新しい何かを、今までの連携を発展させてさらに何かを、社会教育という観点で学長に要望するのが発端。現場レベルの話ではなく、もう少し大きなレベルの話。トップダウンでできることがあるのではないかというのが今日の議論の趣旨。そのための協議をしたい。いただいた意見の中で要望することがないか、次回議論してはどうか。
- (委員) 前回会議で委員から提案された、学長に会議に出席してもらい話を聞いてもらう提案はどうなったのか。
- (委員) 学長に出席いただいても要望する提案がない。何を行うのが良いのか、そもそも大学に要望が出せるのかをこの会議で議論してから学長と話すかを決めるべき。
- (委員) 大学に提案することがゴール。市に了承をもらい、大学に提案していく。市で要望が止まることも提案によってはあるかもしれない。
- (委員) ボランティア支援室は現在どうなったのか。
- (委員) 大学はボランティアをして欲しいし、地域にも利用して欲しい。学生はキャンパスの外で自由にアンテナを張っている。自分で外に飛び出していく学生もいる。うまく学生のスイッチが押せれば良い。
- (委員) これまでの連携がある中で、プラスアルファで何を要望するのか。市民参画課には大学担当がいる。その上で、何が足りなくて何を要望するのかを話し合わないといけない。
- (委員) 前回の要望は、今までの事業の延長ではない。大学に新たな提案ができれば良いが、なかなかそこまでの提案は難しい。今までの延長鹿出てこないかもしれない。
- (委員) 課題を見つけ、教育長に要望するのが社会教育委員の役割。そこまでの話
- (委員) 所属団体で学生にボランティアをお願いしているが、学生に来てもらえるだけの魅力を発信しているのか。イベントの理解をしてもらっているのか。反省もしている立場で言うと、何が要望できるのか。
- (委員) 現在の課題は直していくべき。それでも直せないことを要望すればよ

い。

- (委員) 証明書の発行や表彰はすごく良い提案。大学生が表彰状をもらうことはあまりない。それだけの功績があり、何か形が残るのならメリットがあるのではないか。
- (委員) 学生は表彰状をもらって喜ぶのか。交通費やアルバイト料が欲しいと要望するかもしれない。きれいごとではいかない。大学に学生の意見をとらえることができるか聞かせて欲しい。そのあたりを整理する必要がある。
- (委員) 範囲が広く、色々なところに飛ぶ。次回、テーマごとに議論したい。個々の話ではなく、大きなレベルの話に特化していけばよい。大学として、学生として、市民としてどんなメリットがあるのかという観点で議論していきたい。
- (委員) 具体論の前に、包括協定が締結されている上で何を要望していくのか。何を大学に求めていくのか、全体をまとめた要望を作るべき。大学のコンテンツとしてもっと学生を地域に参加させて欲しい。
- (委員) それを次回議論する。
- (委員) いくつか並列して要望するのか。一つの要望にするのか。
- (委員) 最終的に取捨選択していきたい。

4 その他

5 閉会